

逗子市の「福祉教育チーム」20年間のあゆみ（2002年～2023年）

年度	福祉教育チーム	福祉教育セミナー/基調講演テーマ	プロジェクト(タスクチーム)	備考（◎全国的な取組）
1980	逗子社協では、福祉教育チーム創設(2002年)の25年くらい前から、市内の小学校5年生を対象に車椅子体験を中心にした福祉学習を、また中学・高校生を対象に市内で福祉施設体験を行う「サマースクール」を実施していた。これらの福祉教育推進事業は、児童・生徒が福祉にふれあうきっかけ作りの場として、一定程度の成果はあげていたが、学校による取り組みの差や、断片的でないより包括的な福祉教育プログラムの研究強化の必要性が逗子社協の課題となっていた。			◎WHO(世界保健機関)が「ICIDH(国際障害分類)」を作成 ・疾病や病気から「機能障害」が発生し、それが「能力低下(できないこと)」を引き起こし、「社会的不利」をもたらすという障がいの階層構造を提案。 ・「ICIDH」が作成され各地で疑似体験プログラムが取り込まれるようになった。(1980～90年代)
1998				◎学習指導要領が改定。「生きる力」の育成が示された
2001				◎WHOが「ICIDH」の改訂版として「ICF(国際生活機能分類)」を作成 「何ができないか」ではなく「何ができるのか」というストレングス(力・強さ)を重視するとともに、社会的障壁である「環境因子」に問題があるという考え方。「できない」体験をする疑似体験ではなく「当事者の語りを大切にする」または「生活を知る」というプログラムが少しずつ広がっていった。
2002	<b>福祉教育チーム創設</b>			◎小中学校で「総合的な学習の時間」導入・実施
	<b>「福祉教育検討プロジェクトチーム」</b> 2002年6月～2004年9月			→「福祉教育チームが」生まれた経緯 課題:包括的な福祉教育プログラムの研究強化の必要性 目的:①逗子の福祉教育の理念を明らかにする ②逗子の資源を活用した発達段階に応じた段階的福祉教育プログラムの作成 ③逗子の福祉教育推進システムの構想
	地域福祉ボランティア、福祉施設関係者、教育関係者、行政等をメンバーとした、様々な立場からの意見交換と協同実践を生み出すプラットフォームとして発足した。 逗子の福祉教育の理念・目的・目標・プログラム・推進システムの検討を行った。チームでは当初計画よりも、数多くの議論を重ね、さらに、理念・研究的視点と実践的視点を交錯させ、より多くの人と意見交換を行うプロセスとして「福祉教育セミナー」の開催に至った。		「福祉教育セミナー」はチームメンバーが、企画や登壇者の調整、当日の運営を担当する。 第1回、第2回は、2日間のプログラムとして、1日目に事例発表や基調講演を、2日目にフィールドワーク(福祉施設体験)と振り返りを実施。体験から逗子の資源を活かした福祉教育プログラムの検討につなげた。 第3回以降は、1日のプログラムとして、①アイスブレイク、②パネルトーク(学校を含む地域の実践報告)、③原田正樹先生の基調講演、④グループワークを実施してきた。	
2003		<b>第1回 ワークショップで創る</b> [8月5日, 6日] / 福祉教育とは～その目的と課題～		◎高校で「総合的な学習の時間」導入・実施
2004		<b>第2回 学校と地域でつくる福祉教育</b> [8月5日, 6日] / 福祉教育とは～その目的と課題～		発行:「 <b>学校と地域でつくる福祉教育</b> 」(2004年8月) 福祉教育検討プロジェクトを立ち上げた経緯・福祉教育の理念・検討実践・各学校実践の報告書。「福祉とは」「福祉教育の目的」「発達段階に応じた目標」の整理はその後の実践検討における基礎として、位置づけされている。
2005	<b>「福祉教育実践検討チーム」</b> 2005年5月～2007年3月			
	2期目のチームとして、1期目に検討されたものをいかに実践に移すか検討を重ねた。 「福祉教育セミナー」では3年目までは学校教育を想定した福祉教育が中心であったが、4年目からは、地域福祉の課題を見つめつつ、学校を含む地域の場で、どのような福祉教育を、どのような仕組みの中で作り出せるかという協議へ移行した。	<b>第3回 地域でつくる福祉教育</b> [8月] / 地域福祉と福祉教育		
2006		<b>第4回 地域でつながる福祉教育</b> [8月29日] / 地域でつながる福祉教育		発行:「 <b>地域でつなげる福祉教育</b> 」(2007年3月) 学校を含む地域で福祉教育を進める仕組みの検討、福祉教育段階的プログラム・教材の作成における報告書。「発達段階に応じた目標」を受け、実践で活用すべく5つのプログラム・教材を提案。また「地域ぐるみの展開」を図っていくための実践検討がなされた。
2008	<b>「福祉教育推進チーム」</b> 2008年3月～2010年3月			◎文部科学省「脱ゆとり教育」学習指導要領実施
	3期目のチームでは、学校教育及び、学校を含む地域における実践について検討してきたものを推し進めていくことを目標に掲げた。 「福祉教育セミナー」では、第5回に、5つのテーマを設定し、テーマに応じた実践プログラムを参加者と共に協議した。そのことをきっかけとして、チーム内にテーマに応じたタスクチーム(プロジェクト)が作られ、有志のメンバーとの協同実践へと発展した。第6回では、タスクチームの1年間の試み(実践)を共有し、さらに参加者を交えて意見交換を行う場をつくった。また新しいテーマを検討するグループワークでは、「こころプロジェクト」が発足するきっかけとなる協議が行われた。	<b>第5回 地域がつくる福祉教育プログラム</b> [8月22日] / いのちとくらしを大切にする福祉教育	セミナーでのグループワーク「今後の在り方検討」において、実践の <b>タスクチーム</b> (下記)がつくられた。検討・実践を次年度セミナーで報告した。	
2009		<b>第6回 地域がつくる福祉教育プログラム</b> [8月21日] / 福祉教育の基本的視点とプログラムの協同 実践	<b>「災害」</b> (2009年) ・久木中学校実践・サバイバル親子体験塾・避難所運営訓練参加	(「災害」補足)→子どもから大人までが「防災」を意識して地域のつながりに目を向けること、また災害時に自分のできる最大のことを見出す力を養うことをねらいとして、世代間の溝を超えるような様々な実践を、学校を含む地域の場で行った。 その後、久木中学校での福祉防災体験学習として継続的な取組へ発展した。
			<b>「知的障害理解」</b> (2009年) ・地域キャラバン隊・避難所運営訓練参加	(「知的障害理解」補足)→学校での福祉学習の場だけではなく、地域住民に対して障がい理解の啓発の必要性や、災害時の支援について課題があり、「逗子市手をつなぐ育成会」の家族が避難所訓練に参加するプログラムにつながった。災害時を想定した時の平時のつながりや、地域生活における多様性の理解、支え合う地域づくりは継続的な取組が必要である。

逗子市の「福祉教育チーム」20年間のあゆみ（2002年～2023年）

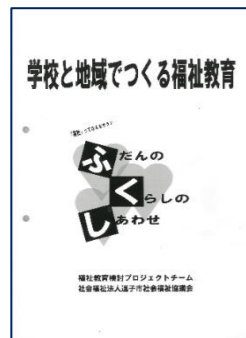
年度	福祉教育チーム	福祉教育セミナー/基調講演テーマ	プロジェクト(タスクチーム)	備考（◎全国的な取組）
2010	<p><b>「福祉教育拡充チーム」</b> 2010年4月～2012年3月</p> <p>4期目のチームでは、福祉教育の協働実践を、さらに、様々な人たちを巻き込んで、広げていくことを目標に掲げた。「福祉教育セミナー」では、第7回にタスクチームが取り組んだ実践の共有。第8回では、10年間の取組みを様々な立場(学校・ボランティア・福祉施設・社協)から振り返り、今後の協働実践と福祉教育推進のプラットフォームの拡充や、個人の体験・学びを「共生文化のまちづくり」にどのようにつなげていくのか、またリフレクションの在り方の視点を考える機会となった。</p>	<p><b>第7回 地域がつくる福祉教育プログラム</b> [8月19日] / 福祉教育とボランティア</p>	<p>「国際交流」(2009年) 「多文化共生」(2010～2011年) ・教材作り・逗子小学校実践・池子小学校実践</p>	<p>(「国際交流・多文化共生」補足)→国際交流・国際協力に興味を抱いた大学生が仲間を集めて「多文化共生」をテーマに地域調査とプログラムづくり、小学校での実践を行った。地域調査で外国からの転入生との出会いが、実践者(大学生)自身にも影響を与え、プログラムづくりに活用された。 メンバーの大学卒業により終了したプロジェクトだが、作成されたプログラムは残る。</p>
2011		<p><b>第8回 地域がつくる福祉教育プログラム</b> ～10年を振り返り、これからを考える～ [8月17日] / 福祉教育のこれからを考える</p>	<p>「子育て応援団」(2009～2013年) ・ごほうび講座開催・叱る講座開催・子どものほめ方叱り方懇親会開催</p>	<p>(「子育て応援団」補足)→子育て支援に関して、地域で多世代のつながりを作り出すの必要性を感じると共に、後継者に悩む自治会が多いことから、子育てを地域ぐるみで考える意識啓発を自治会と共に実践。定着は難しいが、地域の人とつながっているという感覚と、自らつながろうとする力を養うことが福祉教育の役割であることを確認。人の成長を着眼点とする取組みであった。</p>
2012	<p><b>「福祉教育協働実践チーム」</b> 2012年4月～2014年3月</p> <p>5期目のチームでは、地域を軸にした協働実践の在り方を模索。「福祉教育セミナー」では、地域にみる福祉教育と学校にみる福祉教育の連携の在り方を、各方面(地域活動・教育・自治会・若者等)から探求した。それぞれの取り組みでは相互の関係性からの学びと拡がりがあるが、さらに、企画からリフレクションまでの関わりや、どこでも福祉が学びあえる環境(プラットフォーム)づくりが、逗子の福祉教育に必要であると確認ができた。</p>	<p><b>第9回 協働でつくる福祉教育プログラム</b> ～地域と学校の連携を考える～ [7月30日] / 地域と学校の連携による福祉教育</p>	<p>「ボランティア」(2010～2013年) 「若者参加」(2012～2013年) ・「ボランティアハンドブック」作成、施設職員研修、ボランティアスクール</p>	<p>(「ボランティア/若者参加」補足)→様々な地域事例にみるボランティア活動における大切なことをまとめた冊子を作成。現在活動している人たちはもちろん、これから活動を始める人たちにも伝えたい内容をまとめた。その後、ボランティア受け入れ側の施設職員研修や、学生向けボランティアスクール等で周知・説明に活用した。</p>
2013		<p><b>第10回 協働でつくる福祉教育プログラム</b> ～地域と学校の連携を考える～ [8月5日] / 地域と学校の連携を考える ～共生文化の創造へ向けて～</p>	<p>「こころプロジェクト」(2010～現在:学校実践プロジェクトとして稼働中) ・中学校実践「見た目では分かりづらい障がい、困りごとへの理解</p>	<p>(「こころ」補足)→発達障がいへの理解促進として、プログラム検討・中学校実践を開始。1校1学年から始まり、4年目には2校、5年目には3校に広がった。また6年目からは2学年で実施され、さらに3校3学年での実施に向けて、学校側との調整・協議を重ねてきた。教員研修や教員アンケート(ヒアリング)も実施しながらプログラムの再考を重ね、現在も継続して実践中。</p>
2014	<p><b>「福祉教育チーム」</b> 2014年4月～2016年3月</p> <p>6期目のチームでは、福祉教育と地域福祉の連関を探ることを目標に設定。「福祉教育を原点から考える」ことを念頭に、チーム名称は「福祉教育チーム」として、これ以降、同名称を使用。「福祉教育セミナー」では、第11回に福祉教育実践者から、第12回には地域活動者から、気づきや住民同士の学び合いについて報告・共有された。地域の支え合い活動やサロン活動が活発であり、関心者が多かったこの年の参加者数は、過去最高であり、逗子のまちの福祉力の高まりが感じられた。</p>	<p><b>第11回 福祉教育を原点から考える</b> ～ふだんの暮らしのしあわせとは～ [8月19日] / 福祉教育の原点とは ～共生文化の創造へ向けて～</p>		
2015		<p><b>第12回 地域福祉活動と福祉教育</b> [8月19日] / 地域住民の福祉力を育む福祉教育</p>		<p>発行:「みんなが「ともに生きる」福祉教育の12年」(2015年8月) 理念の検討・整理、プログラム検討が主であった1期2期チーム以降、具体的に取り組むプロジェクトが開始。これまでの12年間、プロジェクトチーム等が学校を含む地域で行ってきた福祉教育実践をまとめ、多くの人との共有と、今後の方向性を探ることを目的として作成された。(12年間の実践の記念冊子)</p>
2016	<p><b>「福祉教育チーム」</b> 2016年4月～2018年3月</p> <p>7期目の福祉教育チーム。まず、「福祉教育セミナー」第13回では、地域福祉を軸に、「福祉のまちづくり」をキーワードとしたが、原田先生からは「ふくしでまちづくり」という視点をいただく。そこで、翌年の第14回では、「ふくしでまちづくり」に向けた30年後の地域を描き、そのために今、必要な福祉教育を確認した。</p>	<p><b>第13回 ふだんの暮らしのしあわせをつかむ地域の活動～福祉のまちづくりに向けた福祉教育～</b> [12/27] / 「ふくしでまちづくり」に向けた福祉教育</p>		
2017		<p><b>第14回 「ふくしでまちづくり」に向けた福祉教育</b> ～30年後の地域をえがく～ [8/18] / 「ふくしでまちづくり」に向けた福祉教育 ～30年後の地域をえがく～</p>		◎地域共生社会の実現に向けて福祉教育の必要性が位置づけられた
2018	<p><b>「福祉教育チーム」</b> 2018年4月～2020年3月</p> <p>8期目の福祉教育チームは、「地域共生」をテーマとした。「福祉教育セミナー」第15回では、中学3年生が視覚障がい者への声かけと気づきに関する作文を発表した。そして、それを「当たり前風景」と表した言葉が印象に残る。第16回はふくしの「当事者性」に焦点を当て、「普通ってなんだろう」と問いかけた中学生の作文紹介からスタートした。地縁組織における子育て世代の取組や、福祉授業を経た教員自身の気づきが報告され、一人一人が主役である地域共生社会を考えた。</p>	<p><b>第15回 地域共生の文化づくりに向けて～まなび・つながり・しくの視点から～</b> [8月8日] / 地域共生の文化づくりと福祉教育</p>	<p>「冊子作成」(2018～2019年) ・「地域の子育て活動～逗子の地域活動団体の10事例～」冊子作成。</p>	<p>(「冊子作成」補足)→現状の活動に関わる人々(子育て世代)が地域福祉に関心を持ち、活動に繋がることを目的とした今後の提案冊子として作成。今後の福祉教育実践に繋がる人々(活動)からの、現状の活動と今後、地域福祉との連動が期待される取組や活動者の思いを紹介した。 ・子育て世代に向けて、地域の取り組みや人と関わる機会、活動に参加する機会をつくるための取り組みを継続中。</p>
2019		<p><b>第16回 地域共生社会における当事者性を考える～ふくしの視点から～</b>[8月9日] / 地域共生社会における当事者性を考える ～ふくしの視点から～</p>		

逗子市の「福祉教育チーム」 20年間のあゆみ (2002年～2023年)

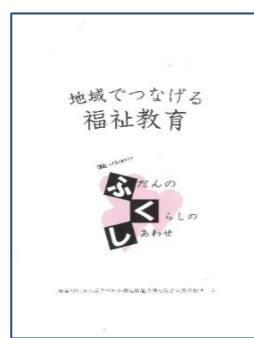
年度	福祉教育チーム	福祉教育セミナー/基調講演テーマ	プロジェクト(タスクチーム)	備考 (◎全国的な取組)
2020	「福祉教育チーム」 2020年4月～2024年3月 9期目の福祉教育チームは、コロナ禍で、様々な活動が休止。福祉教育実践も模索状態となった。「福祉教育セミナー」は8月を中止としたが、今だからこそ、孤立に向き合い、関係性を閉ざさない取組みを検討・共有するため、12月に開催された。	第17回 コロナ禍から考える、孤立しない逗子の生活 ～これからの‘新しい生活’にむけて～ [12月20日] / コロナ禍から考える福祉で地域づくり～地域の動きとこれから～		開催:「拡大メンバー会合」(2020年11月・2021年2月) 改めて「プロジェクト」を捉え直し、継続的また発展的な取組に繋がるよう、活動メンバー(実践者)への意識啓発の場を設定。(次期プロジェクトメンバーに向けて)福祉教育に携わるに当たり、①逗子の福祉教育活動への理解②自身が参加する活動と、地域福祉の繋がり③当事者意識の醸成を目的として開催。 →次年度4月から、3カ年計画として、3プロジェクトが始動。
2021	2年任期としてきた福祉教育チームだが、コロナ禍であった1年目の後、2021年度から「福祉教育セミナー」第20回を目指して3カ年計画を開始した。(任期は2023年度まで延長)近年、プロジェクトの稼働が「こころプロジェクト」(中学校実践)のみとなっていたことから、プロジェクトの在り方を見直し、共通理念のもと、新たなプロジェクトを立ち上げると共に、有志メンバーの地域住民(地域活動者)や福祉専門職・教育関係者等による全体会「拡大会合」を開催した。(会合目的・プロジェクト内容は右記参照)	第18回 誰一人取り残さないまち逗子を目指して [12月18日] / インクルージョンと共生の文化づくり	「学校実践プロジェクト」(こころ2010年～学校実践2021年～現在) ・小中学校の連続性のあるプログラムづくり、協同実践(当事者・専門職・活動者)	(「学校実践」補足)→「こころプロジェクトチーム」を再編し、中学校だけでなく、小学校からの連続的なプログラムの構築を目指して「学校実践プロジェクト」が始動した。 ・小学校実践…地域の様々な方たちとの関わりからの学び。違いに触れて、同じを知り、関係性を広げていく。みんな違って当たり前であり、得意なことをシェアリングすることの学び。 ・中学校実践…多様性や地域生活課題からの学び。「発達障がい」「LGBT」「認知症」等。
2022	3カ年計画の大テーマを「インクルージョンと共生の文化づくり」に設定。「福祉教育セミナー」も大テーマの基、プロジェクト活動を軸にして、1年目(第18回)に課題の共有、2年目(第19回)に課題に即した福祉教育の種蒔きとなる実践の報告、3年目(第20回)に今後の展望をテーマとして設定した。第19回では、プログラムを各プロジェクトによるワークショップ形式として進めた。第20回では、基調講演において、原田先生と共に、逗子の20年間の福祉教育のあゆみを振り返り、今後の展望につなげていくことを予定している。	第19回 福祉の種まき実践を考える～インクルージョンと共生の文化づくり～ [1月7日] / 福祉の種まき実践～インクルージョンと共生の文化づくりに向けて～	「地域活動プロジェクト」(2021年～現在) ・地域のつながりやつながる必要性を考える。自治組織のない地域へのアプローチ。	(「地域活動」補足)→地域の中のつながりやその必要性を検討。つながるためのアプローチの実践。 ・「楽しい」をキーワードにつながる若い世代の取組みや地域の有償サービスを検証した。 ・自治組織のない地域へのアプローチとして、防災&地域交流アンケート(対象地域の355世帯)、わたしの街の掲示板を考える集い、地域交流会、防災カフェを実施。
2023		第20回「私たちのまち逗子」における福祉教育の展望～インクルージョンと共生の文化づくりに向けて～ [12月27日] / 福祉教育の展望～インクルージョンと共生の文化づくりに向けて～	「絵本・アートプロジェクト」(2021年～現在) ・絵本を通して、これまでの福祉のとらえ方を深め、広げる。幅広い層への啓発。	(「絵本・アート」補足)→絵本を通して、これまでの福祉の捉え方を深め、福祉の関心層の拡がりに向けた実践。 ・福祉に関するテーマの軸である「インクルージョン」につながる6つのキーワードをもとに、「大人にも読んで欲しい絵本」の収集、絵本リスト作成、絵本展示、絵本を活用した場づくり、絵本コーナー設置、「逗子を旅する絵本」やワークショップを実施。

2024 新たなステージへ

(これまで作成した報告書・記念誌・冊子など)



資料① 「学校と地域でつくる福祉教育」(2004年8月 発行)



資料② 「地域でつなげる福祉教育」(2007年3月 発行)



資料③ 「ボランティアハンドブック」(2012年3月 発行)

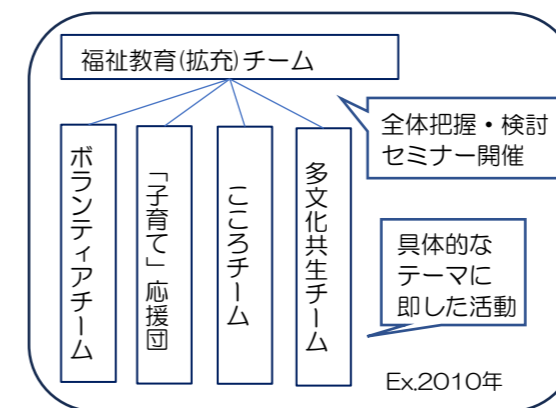


資料④ 「みんなが『ともに生きる』福祉教育の12年」(2015年8月 発行)



資料⑤ 「地域の子育て活動」(2020年3月 発行)

(プロジェクト活動の仕組み)



(「福祉教育セミナー」の様子)

